



# こんにちは！ かさもと俊也です！

こんにちは！かさもと俊也です！県政レポート  
【vol.11】2016年11月7日発行

山陰道「長門俵山道路」太寧寺第2トンネル  
(8月：赤ノ谷地区のトンネル掘削現場にて)

こんにちは。かさもと俊也です。皆様方には、日々様々な場でお世話になっており、心から感謝申し上げます。

私は、県議会9月定例会において、自身8回目となる一般質問を行いました。ここでは特に、地域産業や暮らしの様々な現場に求められる「人」の育成に重点を当てています。5月からの活動と併せて、その内容をご報告いたします。

数少ない北浦出身の県議として、現場の声を県政に反映できるような日々活動の中で、持続可能な集落形成を目指す県内の小規模高齢化集落においては、まとめ役の育成が急務と改めて感じています。

これからの地域づくりでは、老いも若きも一人一役を果たしていくかねばなりません。人口減少の時代、若きが二役以上を果たさなければ、自治会を維持していくことがとすおぼつかない現状です。

したがって、行政がこれまでフォローしてきた住民との距離感も

山口県議会議員  
**本 俊也**

## ふるさとへの未来を担う 仕組みと人を！

変わっています。今以上に住民に寄り添い、地域の将来の姿や方向性を示すための計画づくりに伴走するなど、自治体と自治会、自治体と県民の互いの距離を縮めていかなければならない、時代の要請に合った行政の小さな支援のあり方が問われている、と強く思うのです。

そうした急速に変化する時代や地域に応じた適切な施策が、市町との連携のもと、しっかりと展開されるよう、私は引き続き提言をさせていただきます。

今後とも、皆様方の声を県政に届け、ご負担いただいた重責を全うしてまいりますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

### かさもと俊也の \元気ハツラツ写真レポート！ /



▲大型客船「飛鳥II」が仙崎に寄港  
本県クルーズ船誘致も今年度は28回と過去最多。海からの観光が地元経済効果に繋がっていくよう応援。



▲危険ため池パトロール  
防災対策の一環として、向津半島の泉3ため池の現状パトロールに参加し、意見交換。



▲韓国マジュン旅行社が長門市を訪問  
昨年の本県訪日外国人観光客は22.5万人。北浦地区ツアーの実現に向けPR。



▲レノファ山口を応援  
昇格一年目J3優勝。J2で活躍するレノファ山口のJ1入りを、県と共に議員団も応援。



▲日韓海峡海岸ゴミ一斉清掃  
向津北の美しい海岸線を清掃。地元の皆様を応援する。地元の皆様を応援する。地元の皆様を応援する。



▲山陰道長門下関間建設促進期成同盟会総会  
今年度俵山・豊田間の事業化が決定。地域一丸となって早期供用開始を目指す。



▲香月泰男画伯企画展へ  
シベリアから帰還後、自身の画風を確立されるまでの地元画伯の作品を多くの皆様に。



▲俵山猪鹿工房「想」オープン  
猪・鹿肉の製造・加工・販売をする地元初のジビエ施設がオープン。俵山地域を牽引する産品へ。



▲県議会観光振興議員連盟で岩国市の鵜飼を激励  
県観光施策の展開を議員自らが現場で応援するため、岩国市の鵜飼いを激励訪問。



▲薬物乱用防止キャンペーン  
ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、高校生と共に、根絶を目指すキャンペーンに参加。



▲国道191号線清掃作業  
長門明るい社会づくり推進協議会の皆様と年2回の国道清掃。共助の精神で環境維持を。



▲トンガ王国全権特命大使ツボウ氏訪長  
長門の魅力とラグビーワールドカップ2019日本大会のキャンプ地招致を大使にPR。



▲漁業調査船かいせい竣工式  
漁況情報等を迅速に漁業者へ提供し、県内漁業生産の拡大を目指す新調査船が竣工。



▲西京銀行地域金融懇話会  
一部リーグで活躍するバドミントン部ACT SAIKYO。新ユニフォームを着用した選手と共に。



▲地方創生推進特別委員会  
実効ある地方創生施策の具現化に向け、長門地域の現状を踏まえた意見・要望・提言を。



▲藩門タイムトライアルinやまぐち  
観光にスポーツの関係人口を取り込み一体的に地域振興を目指す「サイクル県やまぐち」がスタート。



▲津黄地区臨時総会へ出席  
元乃隅稲成神社周辺の交通対策について市議さんと共に住民の皆様と意見交換。



▲県議会商工観光委員会県外視察(石川県)  
建機・産機メーカー「コマツ」の工場誘致・クルーズ船誘致と一体となった金沢港湾事業を視察。



▲長門市交通安全の集い  
全国秋の交通安全運動に合わせ、交通事故ゼロを目指し、集いを通じて多くの方に意識啓発を。



67 三隅中5地区 8月1日(月)

こんにちは！かさもと俊也です！県政レポート  
【vol.11】2016年11月7日発行

発行：かさもと俊也事務所

住所 〒759-4101 長門市東深川 2542-3 レインボービル1階  
TEL/FAX 0837-22-5226  
EMAIL kasamototoshiya@gmail.com

かさと俊也事務所  
Aコープ様  
国道191号線 深川小学校  
魚民様  
ネットヨタ様  
フジミツ様  
国道316号線

県政に対する皆様のご意見・ご要望をお寄せください！

### 県政報告会・対話集会

県政レポート Vol.10 に報告した 66 回目以降をまとめております。皆様からいただいたご意見・ご要望は関係機関に対応を申し入れています。

68 日置一円地区 8月22日(月)

69 湯本河原地区 10月24日(月)

# 山口県議会9月定例会 笠本俊也一般質問要約

県議会の録画中継は  
下記からご覧いただけます  
<http://bit.ly/1dhFZPB>

## 質問① 日露首脳会談について

安倍総理とロシア・プーチン大統領との首脳会談が、12月15日に長門市で開催されること正式合意され、早速9月23日には、警察本部や長門市もメンバーとした特別チームが県庁内に立ち上げられたが、会談の円滑な実施と本県の魅力発信に向け、今後どのように取り組むのか。

答弁 村岡知事

会談が円滑に行われ、両国の友好と発展に向けて意義深いものとなるよう、開催に係る諸準備に万全を期す。一方、海外からも注目が集まるこの会談は、本県の魅力を発信する大きなチャンスでもあるから、本県が誇る豊かな自然や食、歴史・文化など様々な魅力を広く国内外にアピールするため、会談に併せた県内視察や県産食材の活用を提案するとともに、多くの来県者へのPRにも努め、本県を強く印象づけたい。会談の開催を本県の歴史にしっかりと刻み、県勢振興にとって大きな財産となるよう積極的に取り組む。

俊也の目！  
知事から、日露首脳会談に向け、万全の諸準備と地元PRへの積極的な答弁をいただきました。円滑かつ実りある会談を期待するとともに、地元への波及効果が高まるよう、引き続き注視してまいります。

俊也の目！  
農業がますます国際化し、多角化を求められる時代。農村集落を守りながら、一方で本県農業をけん引する強い担い手も、同時に育成していかなければなりません。農業大学校での新たな教育・研修プログラムの展開に期待します。

## 水産業の振興について

漁村という水産業の源となる基盤を支えていくための、浜に元気をもたらすような人材育成が急務と考えるが、先日、県と水産大学校とが包括連携協定を締結されたことは、将来、漁村を支える多様な人材の育成につながるものと期待している。県は、包括連携協定をどのように本県水産業の振興につなげようとしているのか。

答弁 村岡知事

水産大学校が持つ高い人材育成機能を活用し、漁業者への研修や漁業現場での指導機会を増やす。また、来年4月に東京から機能移転する研究拠点と連携し、海藻のアカモクなど未利用資源の有効活用や新たな資源管理手法などの共同研究を進める。更に、民間企業を含めた産学公連携により、新商品の開発につなげる。協定締結を契機に、大津緑洋高の協力も得ながら、漁村を支える多様な人材の育成をはじめ、本県水産業の振興・発展に一層努める。

俊也の目！  
知事から、水産大学校との協定締結を多様な人材の育成につなげるための強い答弁をいただきました。全国で9番目に多い漁港を持つ本県の浜の元気、人材育成を注視してまいります。

## 質問② 文化芸術の発信力強化について

本県は地域の魅力度、位と、県の魅力が県外に十分伝わっていないと言われている。『ルネッサながと』でのHOPE展は大盛況で、その魅力と情報発信力に驚いた。低迷する本県の魅力度を上げ、更なる関係人口の拡大につなげていくためには、若手人材の育成と文化芸術の発信力強化が重要と考えるが、今後どのように取り組むのか。

答弁 小玉観光スポーツ文化部長

県では、「やまぐち文化芸術振興プラン」を来年度改定するが、魅力発信につながる若手芸術家の育成をさらに進めるため、若手が活躍する場の創出に積極的に取り組むことを盛り込みたい。県立文化施設で実施しているコンサートや展覧会の中で、若手の発表機会を増やすほか、地域のアートイベントを充実する中で、若手を起用した催しを取り入れるとともに、新たに立ち上げたフェイスブックを活用し、若手やその活動を積極的に発信してまいります。

俊也の目！  
伝統文化を守ること併せて、将来の文化芸術を創る若手の視点にも注目し、県内外へ効果的な発信をしていくことが求められます。新旧の文化芸術が観光産業の一翼を担っていきけるよう、引き続き提言してまいります。

## 栽培漁業の推進について

栽培漁業は、水産資源のコントロールを行いやすく、今後の経営を見通すことが可能となるもので、そこに元気な水産業の光明を見出せると思う。水産資源の減少や枯渇が問題となる中、浜が元気を取り戻すため、浜が実感できる水産資源の回復が求められているが、今後、どのように栽培漁業を推進するのか。

答弁 河村農林水産部長

近年の海洋や漁場の環境変化で、水産資源の回復につなげていない魚種の存在が明らかとなったため、健全な種苗を適切な場所・手法で放流するという基本に立ち返るとともに、放流後の漁場管理や資源管理を徹底する。大型種苗は、餌が多い時期に、隠れ家がある海域へ放流することとし、アワビについては、害敵の少ない初春に放流を前倒しする。放流量日本一のキジハタについては、小型魚採捕禁止という厳しい管理を引き続き実施する。

俊也の目！  
栽培漁業を進めることで浜に新たなビジネスモデルをつくり、漁家収入を確保し、将来にわたって漁村暮らしを支えていくことが求められています。「資源」と「浜」を同時につくり育てる施策をしっかり後押ししてまいります。

## 質問③ アルコール健康障害対策の推進について

アルコール健康障害対策基本法に基づき、その実情に即した推進計画の策定が求め

## 質問③ 中山間地域を支える人材の定着について

やまぐち元気生活圏づくりの中で地域おこし協力隊の導入が進められているが、新規就農者や新規漁業者を含め、中山間地域での定着を考える人材を確保するためには、募集時に生活設計可能な収入確保策を提示することが極めて重要。具体的な支援策を示しながら「志」を大切にすることを必要としているが、どのように考えるか。

答弁 大谷総合企画部長

これまで「やまぐち暮らし支援センター」などを通じ、空き家バンクに登録された物件情報の発信や、共働き家庭を支える多子世帯向け保育料の軽減や放課後児童クラブの開所延長などの紹介、求人情報の提供や職業紹介などきめ細かな支援に取り組んできたが、6月設立の「やまぐち移住倶楽部」について、移住者が抱える様々な不安や悩みに対し、先輩移住者からアドバイスが的確にできる体制を整備するなど、活動を本格化させる。

俊也の目！  
中山間地域に移住し、将来の担い手となる若手人材の長期的な生活設計について、より具体的なプランを行政側から提供していくことは、地域のアピールにつながる重要な視点です。思い描かれていた「志」を大切に見守ります。

## 質問④ 農林水産業の振興について

## 和牛の振興について

和牛農家を中心に、地域の耕種農家やJAが一体となった体制のもと、規模拡大やコスト削減、牛の管理を支えるキャ

答弁 藤井健康福祉部長

現在、医療・福祉の専門家や断酒会など構成する「アルコール健康障害対策協議会」の意見を聞きながら、本県の実情に応じた推進計画の策定を進めている。アルコール健康障害の予防及び相談から治療、回復に至るまで切れ目のない支援体制を整備する上で、組織づくりや人材育成は重要な要素であるから、関係機関相互が情報共有し協力する体制の構築や、民間団体の活動に対する支援、関係者の資質向上などを計画の中に位置づけてまいります。

俊也の目！  
全国で230万人の患者がいると言われるアルコール依存症。克服に向け、計画策定段階において、何より依存症を経験された方々の知見は重要です。実効ある計画とその推進につながるよう、今後の動きを注視してまいります。

## 質問⑥ 教育施策について

## 高校生の国際交流について

留学生の受入や本県から留学する高校生への支援の他にも、将来留学を考える高校生への夢や希望を広げる交流の場を提供することで、全国の若者たちに「世界へ羽ばたく人材を育む基盤を持つ山口県」

## ① 全国和牛能力共進会について

県では、来年に迫った5年に一度の全国和牛能力共進会での日本一を目指しており、残り1年の総仕上げに大いに期待する。全共日本一に向けて、今後どのように取り組むのか。

答弁 河村農林水産部長

全共で高品質なやまぐち和牛を示すことは、ブランド力の向上を図る上で大変重要。現在、巡回指導により、良好な発育状況を確認しているが、総仕上げとして、肉質向上のための良質な飼料給与への支援をはじめ、疾病予防等の衛生対策の徹底や、開催地である宮城県までの距離を考慮した、ストレスの少ない輸送方法の検討など、県代表牛の能力が十分発揮されるよう万全を期す。

## ② 和牛経営体の育成について

高齢化による廃業が原因で子牛価格が高騰し、肥育経営を圧迫するなど、県内の和牛産地全体が消滅しかねない状況にある。個々の経営体にとどまらず、地域全体で経営できる体制をつくる必要があると思うが、和牛の振興・増頭に向け、後継者育成が可能な経営モデルの検討も含め、和牛経営の体質強化にどのように取り組むのか。

答弁 河村農林水産部長

和牛農家を中心に、地域の耕種農家やJAが一体となった体制のもと、規模拡大やコスト削減、牛の管理を支えるキャ

答弁 浅原教育長

現在、実践的な語学力の育成や留学の促進を図るとともに、諸外国の伝統・文化を理解し尊重する態度の育成に取り組んでいるが、今後は、高校生が県内大学の外国人留学生と直接交流する場を設け、将来留学を考える高校生が、その志を高められる機会を創出する。留学生の受入に関しては今後、留学生が地域において多くのことを学ぶ中で、山口県の良さを実感することが帰国後の交流につながるという視点も踏まえて取り組んでまいります。

俊也の目！  
国内で開催される世界大会を控え、県内では様々な動きが加速しています。大会の効果も、一過性でなく後世に残せるよう、高校生レベルからの国際交流を本県から提案することも必要です。新たな一歩が踏み出せるよう、引き続き提案します。

## コミュニティ・スクールの活動の充実について

高校では、生徒自らの将来設計や地域への愛着の形成につながるコミュニティ・スクールの展開を期待しますが、学校再編された県立高校の本来の特色が大いに活かされたオンリーワンの取組が進むよう、応援してまいります。

トルステーションを活用した省力化等により、地域ぐるみで経営体質の更なる強化を進め、和牛の増頭を図ってまいります。この取組を展開する上で後継者の育成は不可欠だから、新規就業者の受け皿となるべき集落営農法人と畜産農家とが連携する連合体の育成を通じて、一定の経営規模や収益を有する経営モデルの検討も進めてまいります。

俊也の目！  
和牛の増頭に向け、地域全体での経営モデルを実現できるよう、私自身も調整に汗を流しながら、現場に即した提言を重ねてまいります。

## 農業分野での強い担い手育成について

自然相手の環境下、経営と暮らしを守っている力強い農業経営者がいるからこそ、集落が守られ、産業が支えられ、その姿を見て新たに農業に挑戦する若者が生まれている。担い手対策における全国一の人口支援と合わせ、本県農業をけん引する経営者を育てるといった視点を意識して、農業分野での強い担い手育成に取り組めたい。

答弁 河村農林水産部長

本県農業の将来を見据えると、今後は特に、経営能力に優れた強い担い手の育成に重点を置く必要がある。そこで、国際化など時代の変化に対応できる多様な経営ノウハウを取得してもらうため、農業大学校を拠点に、経営者としてのスキル向上を支援するほか、6次産業化による経営発展を目指す農業者の増加を踏まえ、商品開発や販売について事業経営者から直接学ぶインターンシップを組み入れた実践的な研修を実施してまいります。

高校版コミュニティ・スクールが今年から3年間の指定で3校に設置され、義務教育における活動に比べ、より高度な展開が期待されている。「やまぐち型地域連携教育」の取組のモデルとして、3校の成果をしっかりとアピールしながら、さらに充実のための体制・環境整備を進め、オンリーワンの実現に向け、どのように取り組むのか。

答弁 浅原教育長

先行導入した大津緑洋高校では、地元食品関連企業の商品開発への参画や、大学等と連携したまちづくり支援活動など、地域の特性を踏まえた、高校ならではの専門性の高い教育活動を展開しているが、更なる充実を図るため、学校運営協議会に大学や企業の関係者など、多様な人材の英知を結集して地域の期待に応える取組の質的向上を図ってまいります。また、3校の成果については、事例発表や積極的な情報発信に努め、今後の拡充につなげる。

